

自然観察 NOW

野幌森林公園自然情報

平成25年8月8日 No. 4

北海道ボランティア・レンジャー協議会

オオハナウドの話

雄性期・間期・雌性期と咲き進むオオハナウド

6月下旬～7月上旬、野幌森林公園の森には沢山の真っ白なオオハナウドが咲いていました。

散形花序が集まつた複散形花序の花を咲かせます。花は雄しべも雌しべもある両性花です。ところが、オオハナウドは雄しべ先熟ですから、開花は雄の時期、雄・雌どちらでもない間期、雌の時期という三つの過程経て咲いていきます。

散形花序、複散形花序ともに周辺部から中心部に向けて開花が進行します。複散形花序の周辺部の先に咲いた花は、先に間期になります。そのまで全部が雄の時期を終えるまで待って、一斉に雌の時期に進んでいきます。



第1番目の花序だけが実るのはなぜでしょう。

今の時期、1番目の複散形花序だけが実ったオオハナウドを見ることができます。第1番目の花序だけが実るのはなぜでしょう。

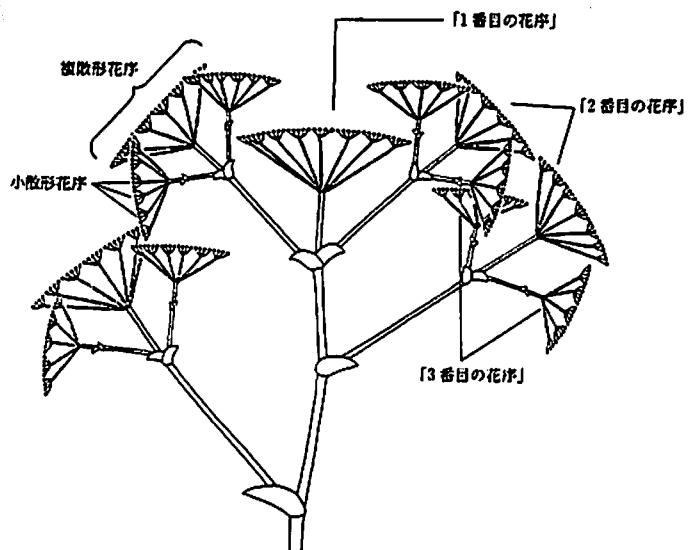
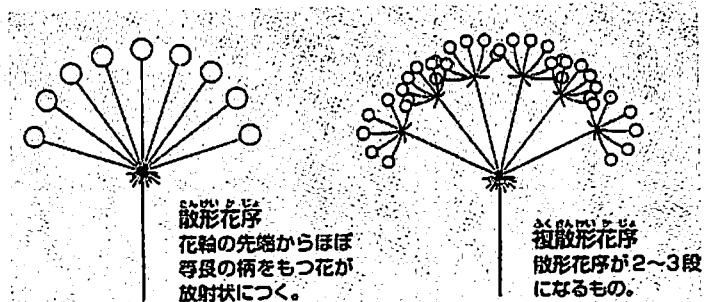
2番目の花序の実りは、1番目の花序の実りが影響します。訪れる昆虫が少なかったり、折れたり等で1番目の稔りが悪いときは、2番目も実ります。

それでは、1番目の花序の実りがよかったときはどうなるのでしょうか。この場合、2番目の花序は、雌の時期まで進みません。雄の時期で終わります。花粉を実らせて、花粉親になるのです。どの花も実をつけることは植物にとって大変コストのかかることです。とても賢い選択をしていると言えるでしょう。

それでも1番目の稔りの状態の情報はどの様にして、2番目の花序に伝えられたのでしょうか。賢いけど、不思議ですね。



<雌性期のオオハナウド>



ナニワズの話



今日は、こんな真っ赤に輝いている実が見られるでしょう。ナニワズの実です。

ナニワズは、「ナツボウズ」ともいいます。夏になると葉を落とし、「ボウズ」の如しの姿をしているからでしょう。ナニワズには雄株と雌株があります。左の写真は、実がついていますから雌株です。夏の時期、葉を落とし、何ら目印の無い雄株を見つけるのは難しいです。

ナニワズは、春雪解けと共に咲く早春の花です。枯葉イッパイの林床にこの鮮やかな黄金色の花を見つけると嬉しくなります。その嬉しさを詠った一首に、「難波津に咲くや此の花冬ごもり 今を春べと咲くや此の花」があります。この歌は、応神天皇の頃来朝した百濟の王仁が詠んだといわれています。そして、いつしか早春に咲くこの花のことを、この歌の「難波津」にかけて「ナニワズ」になったという説があります。

ナニワズはオニシバリともいわれます。これは、樹皮が強靭で手ではなかなか折れないので、鬼をも縛ることが出来るという意味です。

ナニワズは、秋に芽ぶき葉をつけます。そのまま冬を越します。早春に花を咲かせ葉を茂らせ、夏は、葉を落とします。背丈の低いナニワズは、夏には十分な日光を受けられないからの戦略でしょう。

ツチアケビの話



今日は、ツチアケビにも出会えるでしょう。

ツチアケビは、ラン科に属しています。緑色をしていません。葉緑体が無いのです。光合成をして自分で栄養を作ることが出来ないです。

「葉緑素をもたない日本産高等植物は約40種ある。そのうちラン科の20種がずば抜けて多い。これらの植物は腐生植物と記載されていることが多い。しかし、これらの植物は落ち葉などを分解して栄養源としているわけではない。菌類と共に生して菌根をつくり、菌から栄養を奪って生活しているのであり、菌根植物と呼ぶ方が正確である。」(「花の自然史」から引用)

自然の案内人になろう

受講者募集中です

北海道ボランティア・レンジャー育成研修会

10月25日（金）～27日（日）・会場・申込先：自然ふれあい交流館

これからの観察会案内

◆秋の花でにぎわう森を歩こう 9月8日（日） 自然ふれあい交流館10時集合

解散は午後2時半 昼食持参

◆芸術の森観察会 10月6日（日） 芸術の森入り口バス停留所10時集合